注１：飼料要求率

体重１kgを増加させるために必要な飼料量であり、次の式により算出される。

$$飼料要求率＝\frac{飼料摂取量}{増体量}$$

表１：純粋種豚の能力に関する目標値（全国平均）

	品種	繁殖能力		産肉能力				
				１日平均増体量				
		１腹当たり育成頭数	１腹当たり子豚総体重	0-105kg	30-105kg	ロース芯の太さ	背脂肪層の厚さ	飼料要求率
		頭	kg	g	g	cm^2	cm	
現在	ﾊﾞｰｸｼｬｰ	7.7	46	542	728	29	1.8	3.2
	ﾗﾝﾄﾞﾚｰｽ	10.2	61	652	852	32	2.1	3.1
	大ﾖｰｸｼｬｰ	10.4	62	674	907	32	2.0	3.0
	ﾃﾞｭﾛｯｸ	7.8	43	746	1,037	33	2.8	2.9
目標（令和17年度）	ﾊﾞｰｸｼｬｰ	8.2	48	560	745	29	1.8	3.1
	ﾗﾝﾄﾞﾚｰｽ	11.2	66	690	910	32	2.1	3.0
	大ﾖｰｸｼｬｰ	11.4	68	700	950	32	2.0	2.9
	ﾃﾞｭﾛｯｸ	8.3	45	780	1,100	33	2.5	2.8

※１：繁殖能力に係る数値は、分娩後３週齢時の母豚１頭当たりのものである。

※２：繁殖能力及び産肉能力に係る数値（飼料要求率を除く。）は、一般社団法人日本養豚協会が行う遺伝的能力評価事業で雌雄の個体のデータを収集したものである。

※３：現在値は、繁殖能力は令和３～５年度、産肉能力は令和２～４年度に収集したデータの平均値である。

※４：１日平均増体量の数値は、実際の改良の現場で、生時を体重０kgとして算出した105kgまでの間の値と、30kgから105kgまでの間の値の両方が使用されているため、併記。なお、30kgから105kgまでの間の値は、０kgから105kgまでの間の値から推定したものである。

※５：飼料要求率の数値は、体重30kgから105kgまでの間の１日平均増体量と飼料要求率の関係をもとに推定した値である。（バークシャーについては実測値。）

※６：ロース芯の太さ及び背脂肪層の厚さは、体重105kg到達時における体長２分の１部位のものである。

表２：（参考）純粋種豚の能力に関する育種価向上目標数値

	品種	繁殖能力		産肉能力	
				１日平均増体量	
		１腹当たり育成頭数	１腹当たり子豚総体重	0-105kg	30-105kg
		頭／10年	kg／10年	g／10年	g／10年
目標（令和17年度）	ﾊﾞｰｸｼｬｰ	＋0.5	＋２	＋18	＋17
	ﾗﾝﾄﾞﾚｰｽ	＋1.0	＋５	＋38	＋58
	大ﾖｰｸｼｬｰ	＋1.0	＋６	＋26	＋43
	ﾃﾞｭﾛｯｸ	＋0.5	＋２	＋34	＋63

※１：繁殖能力に係る数値は、分娩後３週齢時の母豚１頭当たりのものである。

※２：育種価

産子数や増体量等の測定値と血縁情報を用い、飼養管理や産次等の環境の影響を除いた、その個体自身が両親から受け継ぎ、産まれながらにして持つ遺伝的な能力を数値化したもの。

※３：目標は、令和７年度時点を基準とした育種価の向上の度合いを示すものであり、令和17年度までのそれぞれの生産者における10年間の遺伝的改良量である。

表３：（参考）肥育素豚生産用母豚の能力に関する数値（全国平均）

	１腹当たり生産頭数	育成率	年間分娩回数	１腹当たり年間離乳頭数
	頭	%	回	頭
現在	11.8	90	2.3	24.2
目標（令和17年度）	12.6	95	2.3	27.5

※１：育成率及び１腹当たり年間離乳頭数は、分娩後３週齢時のものである。

※２：肥育素豚生産用母豚の能力は、交雑種のものとする。なお、算出に用